

DMD 情報共有冊子

高校進学編

Q & A



『はじめに』

当院身体リハビリテーション部には、幼児から成人まで、多くのデュシャンヌ型筋ジストロフィー（以下DMD）の方が定期的に通院されています。

私たちは、長年にわたり作業療法を通じてわずかな支えになれたらと努めてきました。その役割の一つは、「情報の橋渡し役」です。皆さんの経験や、生活の中で実践されている工夫は、他の仲間の不安や悩みを解決するヒントになります。その時々タイミングよく情報の橋渡しをすることを心掛けてきました。そして今、これまで蓄積してきた情報を、より多くの人と共有できたらという思いで、いくつかのテーマに分けてまとめていく取り組みを始めています。

今回は、「高校進学」編です。中学校生活に慣れてきたのも束の間、そろそろその先の進む道について考え始めている中学生の皆さん、そしてご家族の方々に向けて先輩の方々から寄せられた声や経験を元に、特別支援学校高等部と公立高校に焦点を絞り、学校選びや受験に関する情報をお届けすることにしました。

一人一人身体状況、個性や環境が異なりますが、自分らしい高校生活を見つけるヒントが見つければ幸いです。

2021年11月

国立精神神経医療研究センター病院

身体リハビリテーション部 作業療法士 上村亜希子

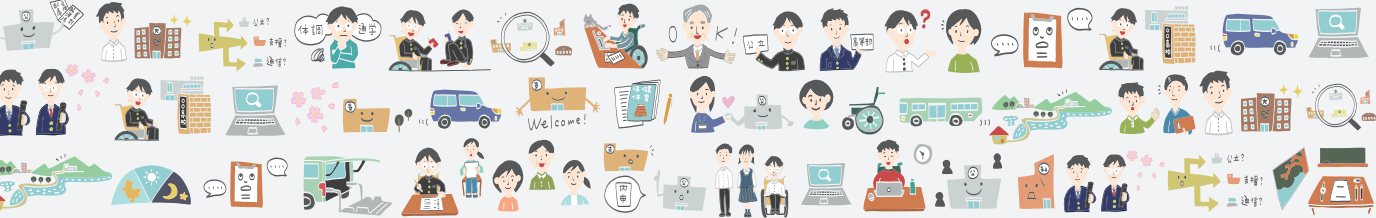
掲載されている情報については、通院されている皆さんのお住まいの地域である東京都及び近隣の県（神奈川県、埼玉県、千葉県）の情報が反映されています。各自治体、また学校ごとに違いはありますのでくれぐれも参考程度にご覧頂き、具体的な情報については各自治体及び学校にお問い合わせ下さい。

小児神経科の先生方からのコメント

私たちは日常の診療でも教育に関する質問をよく受けるのですが、これらの経験も踏まえて作業療法士の皆さんが中心となって、本冊子を作成いただきました。高校進学は義務教育ではないこと、選択肢が多いことなどもあって、皆さん悩みながら選択している場合が多いと思いますので、本内容も参考にいただければと思います。〈小牧宏文先生〉

高校進学にあたっては、様々な不安やどの選択が最良なのか、悩まれることが多いかと思います。実際の経験者からの体験談など、本冊子には高校進学にあたっての意志決定にお役に立てる情報があると感じています。ぜひ一度目を通していただけると幸いです。〈本橋裕子先生〉

本冊子は、高校進学にあたってのさまざまな先輩方の実際の経験や生の声について、具体的にまとめて頂きました。今後高校進学を控えている皆さんやご家族にとって大変参考になる内容だと思いますので、ぜひご一読ください。〈竹下絵里先生〉



目次

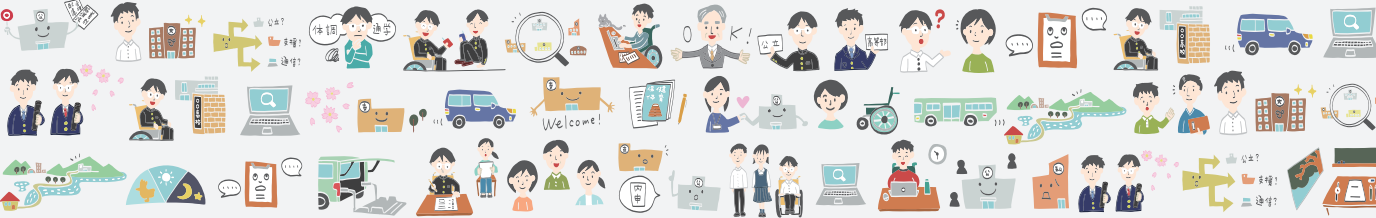
1. 教育環境と学校の選択

- 1 障害をもつ生徒の教育環境の動向は？ ...10
- 2 特別支援学校 (=以下支援学校)か？公立高校か？通信教育も検討か？ ...11

2. 支援学校と公立高校

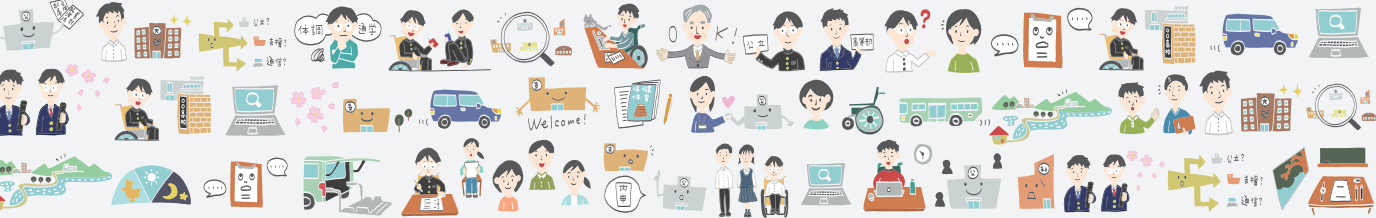
①支援学校編

- 1 なぜ支援学校を選択したのですか？ ...12
- 2 支援学校の選択をして良かったと思う点を教えてください？ ...12
- 3 支援学校の選択の際に不安や迷いはありましたか？ ...13
- 4 支援学校に関する情報はどこかで得られますか？ ...13
- 5 支援学校への進学を検討中です。どのように準備をすればよいですか？ ...13
- 6 支援学校を検討中ですが、入学ができないことはありますか？ ...14
- 7 入学試験はありますか？ ...14
- 8 卒業後の進路が知りたいです？ ...14
- 9 支援学校を卒業後、大学への進学は可能ですか？ ...15
- 10 卒業後すぐに就労されている先輩はいますか？ ...15



②公立高校編

- 11 なぜ公立高校を選択したのですか？ ...16
- 12 公立高校を選択して良かったと思う点を教えてください ...16
- 13 公立高校選択の際に不安や迷いはありましたか？ ...17
- 14 相談の窓口は、どこになりますか？ ...17
- 15 支援員の配置などの配慮は問題ないのでしょうか？ ...17
- 16 定時制高校への入学された方はいますか？ ...18
- 17 なぜ私立高校ではなく公立高校への進学が多いのでしょうか？ ...18
- 18 私立高校へ進学された方はいますか？ ...18
- 19 併願校はどうしたのですか？ ...19
- 20 車椅子生活です。公立高校を検討しています。
障害を理由に断られることはありますか？ ...19
- 21 車椅子生活です。地元の中学校に通い公立高校を検討しています。 ...19
- 22 学校選びはどうしたらよいですか？ ...20
- 23 学校公開などは行った方がいいですか？ ...20
- 24 保健体育などの実技教科の内申点が不利になりそうです。
何か良いアドバイスはありますか？ ..21



25 受験当日は、具体的にどのような合理的配慮が可能なのでしょうか？ ...21

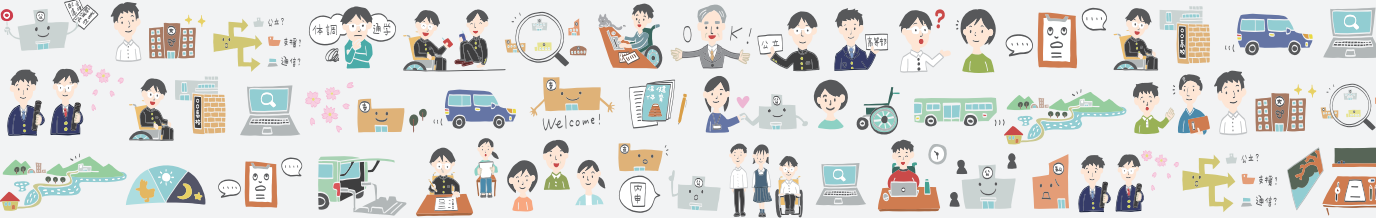
26 地域の支援学級、支援学校中等部から公立高校を受験することはできますか？ ...22

27 入学後の学校生活についての事前相談は可能なのでしょうか？ ...22

28 通学はどうしあてているのですか？ ...22

29 高校の通学に移動支援は使えますか？ ...23

30 卒業後の進路はどうされているのですか？ ...23



3. みんなの高校生活

“支援学校高等部の毎日は100点満点！”のAさん ...24

“支援学校から卒業後は大学へ進学”したBさん ...27

“公立高校に進学”したCさん ...29

“公立の商業高校に進学”したDさん ...33

“周囲のアドバイスを参考に公立高校へ進学”Eさん ...37

“国立の特別支援学校高等部に進学した”Fさん ...41

第1章

教育環境と学校の選択



障害をもつ生徒の教育環境の動向は？



「障害者差別解消法」と「合理的配慮」が教育分野でも動き始めています。

2016年4月に障害者差別解消法が施行されました。この法律では、障害のある生徒たちに、学校が「合理的配慮」を行うことを義務づけ、生徒たちが合理的配慮を受けることを「権利」として位置づけました。（※私立の学校は努力義務ですが、国公立の学校は合理的配慮の提供は法的義務となっています。）特別支援学級や特別支援学校、通常の学級に関わらず障害のある全ての生徒が対象となります。

例えば、「教室を1階にして欲しい、トイレや教室移動に際し支援員を付けて欲しい」、「筋力低下があり受験の際解答に時間がかかるため試験時間を延長して欲しい」など、皆さんが不安に思い、実際に感じる問題の多くが合理的配慮に該当します。

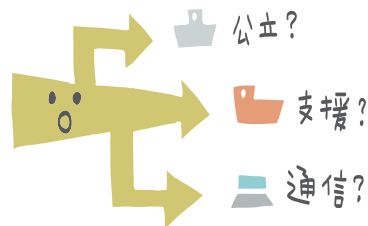
障害者差別解消法の施行後、地域によつての差はまだありますが、支援員の配置やある程度の予算で可能な設備面の調整はスムーズに提供されるなど、合理的配慮を得て学ぶ機会が拡大していると感じます。障害がある生徒が自分らしい学校生活を送れるスタイルが一般化しつつあると感じています。

障害者差別解消法ハンドブック《都立学校版》(2021.4アクセス)

<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/consulting/window/files/handbook/handbook1.pdf>



特別支援学校 (=以下支援学校)か？ 公立高校か？通信教育も検討か？



学校の選択については、それぞれの良さがあり一概には言えませんが・・・

現状、当院リハビリテーション科に通院する先輩の皆さんの大部分が、特別支援学校(以下支援学校)あるいは、全日制の公立高校(以下公立高校)への進学をしています。中学校まで地元の公立中学校に通学した方も、高校進学を機に支援学校を選択することも多く、割合的に言えば、支援学校に進学する方が多いと思います。一方で、受験をして公立高校へ進学することも特に珍しいという印象ではなくなっています。先述した社会の流れは一つに関係していると思います。一昔前は、入試の許可を得るため教育委員会や学校側と度重なる話し合いが必要でしたし、入学後も保護者が毎日付き添うことが当たり前という時代でした。そう思うと、公立高校入学の壁が低くなっていると感じます。

また、全国的に増加傾向にある通信制高校への入学については、今年1名の方が入学されています。世の中は急速にオンライン化が進んでいます。皆さんの選択肢の一つとして今後はより現実的になるのではないかと考えています。

学校の選択は、主体的に進学先を考えることが可能になっています。迷いがない人もいるでしょうし、ギリギリまで迷う人もいます。高校生活に何を望むのか、自分の気持ち、家族の思い、体力なども含めた身体の状態、学力、通学手段、学校設備、支援員の配置、卒業後の進路など多くのことを踏まえながら皆さん一人一人に適した進学先を決めて欲しいと思います。

第2章

支援学校と公立高校

① 支援学校編



なぜ支援学校を選択したのですか？

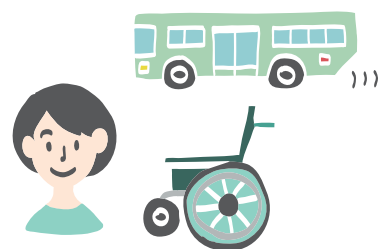


先輩の皆さんからの回答です。

- ・中学校から支援学校の中等部に転籍したため、高校はそのまま高等部に進学しました。
- ・受験を考える頃には、体力がなくなり支援学校への進学に決めました。
- ・電車やバスを使った通学は困難だと思いあきらめました。
- ・大学に進学をする人もいと聞き、家族への負担も少ない支援学校にしました。
- ・両親から、勉強は得意でも好きでもなく、性格も大人しいので少人数で支援体制も整っている支援学校の方が向いているのではとすすめられました。



支援学校を選択して良かった点を教えてください



先輩の皆さんからの回答です。

- ・先生が障害のある生徒の教育に関して専門家でした。
- ・校舎はバリアフリーで車椅子での学校生活環境が整っていました。
- ・クラスが少人数で、きめ細な対応をしてもらえました。
- ・分かり合える仲間ができました。
- ・スクールバスがあり通学への不安がありませんでした。
- ・それぞれの障害や発達の状態に合わせて手厚い支援が受けることができました。
- ・排痰吸引など医療的なケアを受けながら学校生活を送ることができました。
- ・保護者同士がちょっとした会話の中で情報交換ができました。
- ・卒業後の生活を具体的に体験できる機会が多くありました。例えば、作業所や就労支援施設、特例子会社などの見学などです。自分にあった卒業後の道を検討するために役に立ちました。

3

支援学校の選択の際に不安や迷いはありましたか？



先輩の皆さんからの回答です。

- ・一緒に学んだ地元の小中学校の友達とは離れ離れになることは残念でした。
- ・学校数が限られている為、自宅からの通学距離があり通学時間がかかることに不安がありました。
- ・少人数のクラスで友人が限られてしまうことに不安がありました。
- ・学習面で公立高校と比較するとカリキュラムという点で不利になるのではと感じていました。

4

支援学校に関する情報はどこかで得られますか？



各都道府県の教育委員会にホームページがあります。

支援学校は、市区町村ではなく各都道府県の教育委員会が窓口になります。ホームページ上で、学校一覧、学校の特色、学区域、入学までの流れなどが掲載されていると思います。そこでの情報以外に疑問や質問がある場合は、相談窓口にお問い合わせしてみるのも良いでしょう。

5

支援学校への進学を検討中です。どのように準備をすればよいですか？



まずは在籍する中学校の学級担任や進路指導の先生に相談してください。

学校公開も行っているはずですし、学校見学はもちろん、体験学習を設けている学校もあります。ぜひ、早い段階でそのような機会も利用して検討をされることをおすすめします。手続きなどは、在籍している中学校を通じて志望する特別支援学校へお問い合わせされるのがいいと思います。

6

支援学校を検討中ですが、
入学ができないことがありますか？



A

これまで入学ができなかったという方は聞いたことはありません。

東京都の場合、知的障害特別支援学校の就業技術科・職能開発科、視覚障害特別支援学校の保健医療科などの学校では募集人員を定めているため、不合格者が出る場合があるようです。しかし、基本的には、皆さんが選択肢として検討する普通科の支援学校については、募集人員の定めはなく、都内に在住し、応募資格に該当していれば不合格になることはないのが現状です。都道府県の違いで支援学校入学の応募資格が大きく異なることは考えにくいですが、お住まいの県の教育委員会でご確認いただければと思います。

7

入学試験はありますか？



A

面接や学力検査がある学校があります。

面接や学力検査がある学校があります。

入学については、上記 Q8の通り、応募資格に該当するかが重要です。そのため、当日の点数が入学の可否に関係することはない上で、評価を兼ねた面接や試験などの実施がされています。

8

卒業後の進路が知りたいです



A

先輩の皆さんの進路は様々です。

- ・作業所と障害者デイサービスを利用し平日の日中は過ごしています。
- ・地域の希望する作業所は定員いっぱいで行けず、現在デイサービスのみ利用しています。
- ・体力がなく作業所を休みがちですが、体調のいい時は通い過ごしています。
- ・就労や進学ではなく、障害者スポーツに専念することにし頑張っています。
- ・東京都のIT技術者在宅養成講座を受講し、現在在宅就労をしながら生活しています。
- ・就労を目指して、PC教室に通っています。
- ・大学に進学しました。
- ・通信制の大学に進学しました。

9

支援学校を卒業後、 大学への進学は可能ですか？



A

可能だと思います。

実際に何人もの先輩が進学されています。

これまで、特別支援学校高等部卒業を理由に大学進学をあきらめたというお話はあまり聞いたことがありません。例えば、東京都教育委員会の説明では、「大学の入学資格はあくまでも大学の判断になり、受験資格についても同様。」としています。

一人一人、学習の進度に違いはあると思います。大学進学を検討する場合、希望する大学に受験が可能か否かについては、学校の先生と相談の上、大学側に確認をとる必要があるようです。

大学入学資格について(文部科学省 HPより引用) (2021.4 アクセス)

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shikaku/07111314.htm

10

卒業後すぐに就労されている 先輩はいますか？



A

はい、います。

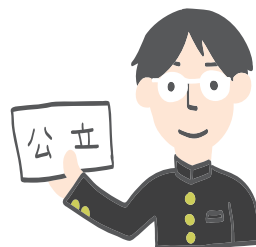
昨今は、在籍中に就職先が決まり障害者雇用枠で在宅就労をされている先輩が増えています。学校により就労支援体制に多少の違いがあるようですが、障害者雇用を積極的に進める企業が増え、卒業後すぐに就労することが可能になってきている印象です。

※就労については、通勤や会社内でヘルパー利用できない場合が多く在宅就労が現実的な選択肢になっています。

②公立高校編

11

なぜ公立高校を選択したのですか？



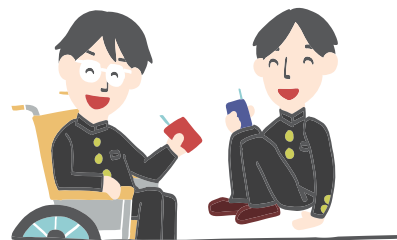
A

先輩の皆さんからの回答です。

- 地元の公立中学校に通い、自分の中で支援学校の選択肢がありませんでした。
- 就労を視野に入れ、専門的な知識を身につけたいと思い公立高校の受験を決めました。
- 同世代の友人が欲しかったので公立高校を選択しました。
- 学校の先生や家族と多くの相談をした結果、最終的に公立高校に決めました。
- 大学への進学を考えていたので公立高校がいいと思い受験しました。

12

公立高校を受験して良かったと思う点を教えてください



A

先輩の皆さんからの回答です。

- 大きな問題もなく普通に楽しかったです。
- 新しい環境で、新しい人間関係を築くことができ良かったです。
- 特にいじめなどもなく友人もでき高校生活を楽しむことができました。
- 部活動を楽しむことができました。

13

公立高校選択の際に不安や迷いはありましたか？



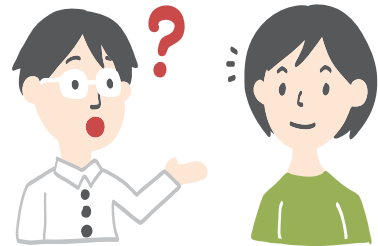
A

先輩の皆さんからの回答です。

- ・合格できるかどうかが本当に不安でした。
- ・卒業までの3年間、体調面での不安はあり、支援学校とどちらがいいかは迷いました。
- ・一人で通学ができるかが不安でした。
- ・通学は、家族に頼らなくてはならず迷いました。
- ・自分を理解してくれた先生や地元の同級生と離れ、新しい環境へ飛び込むことへの不安はありました。

14

相談の窓口はどこになりますか？



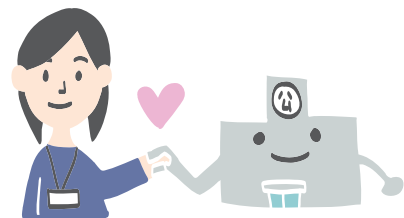
A

公立高校は、都道府県の教育委員会が相談の窓口です。

エレベーターや障害者トイレなどの設備関係、車椅子での受験や、高校生活に関する不安など色々確認されたいことや不安があると思います。都や県のホームページを調べてみるのも良いかと思ます。まずは、担任の先生に相談されてみることをおすすめします。なお、私立高校は、それぞれの学校が窓口になります。

15

支援員の配置などの配慮は問題ないのでしょうか？



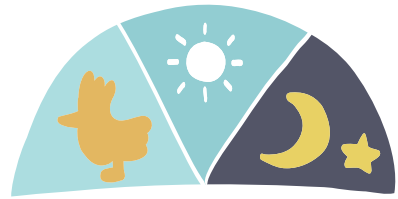
A

都道府県によってまだ提供の差があるようですが…

先輩の皆さんから伺う中では、東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県公立高校では、支援員はスムーズに配置されている印象です。ここ最近では、茨城県在住の方で高校入学が決定し県立高校で初めて支援員配置が実現したというお話を伺いました。また環境面では、障害者トイレへの改修やスロープの設置は可能であっても、エレベーターの設置などはやはりハードルが高く、学校環境はよく検討した上で受験校を決定されているようです。

16

定時制高校への入学された方はいますか？



A

はい、いらっしゃいます。

東京都を例に上げると「昼夜間定時制高校」があります。自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて、午前・午後・夜間の三つの中から選んで入学する定時制・単位制・三部制の普通科高校です。1日4時限ずつ4年間かけて学ぶことが基本ですが、他の部と合わせて1日6時限の授業を受けられるため3年で卒業することも可能な仕組みになっています。こういった定時制高校が近隣の県にもあるようです。

自分の体調に合わせて通学ができるという理由で、午前から通学するコースを選択し入学をされた方がいらっしゃいます。

17

なぜ私立高校ではなく公立高校への進学が多いのでしょうか？



A

支援員の配置が可能か否かがその背景にあるようです。

公立高校へ進学された皆さんは口を揃えて、「私立高校は、設備面が整っていても学校の予算の中から支援員の配置をすることが難しく結果的に公立高校しか選択肢がなかった。」と話されます。私立高校で支援員配置のための公的費用があれば皆さんの高校の選択肢は増えると思うのですが・・・現状はそのようです。

18

私立高校へ進学された方はいらっしゃいますか？



A

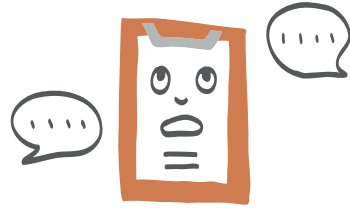
把握している方は、お一人です。

その方が入学された高校は、校長先生の理解があり、支援員の配置はなかったものの学校の職員が必要に応じ介助をしてくれたとのことでした。

世の中の流れを考えると、今後受け入れ体制は変化していくのではないのでしょうか。最初から、視野に入れられないということではなく、気になる学校がある時は、学校見学や問い合わせをされてみてはと思います。

19

併願校はどうしたのですか？



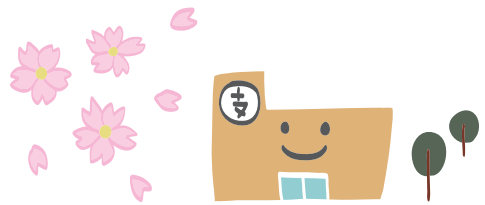
上記 Q20 のとおり、併願校の選択肢がなかったという先輩がほとんどです。

学校見学や相談の段階で受け入れが難しそうだと判断し受験をしなかった、あるいは受験し合格したが実際に入学となると保護者の付き添いが求められており現実的には困難だったなどのお話を耳にします。

A

20

不合格だった場合、支援学校へ入学することは可能ですか？



各都道府県の教育委員会で確認する必要があります。

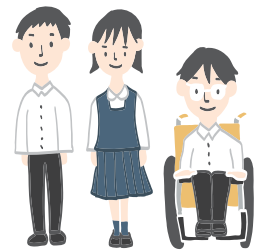
東京都でいうと可能な場合が多いようです。(2020. 6時点)

毎年3月初旬に、多くの普通科の支援学校では追加募集があり入学が可能なようです。都立高校の合格発表後、残念ながら不合格の場合、支援学校への入学は選択肢として考えられる一つになるでしょう。お住まいの地域で可能か否かについて県の教育委員会にお問い合わせ頂ければと思います。

A

21

車椅子生活です。公立高校を検討しています。障害を理由に断られることはありますか？



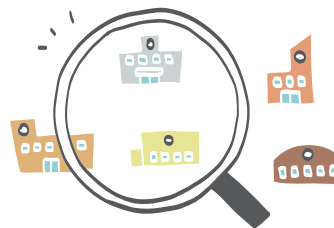
断られることはありません。

受験資格は障害に関係はなくあります。

A

22

学校選びはどうしたらよいですか？



A

まずはどんな学校があるのか調べてみるるところから始めてみてはどうでしょう。

学校選びは、まずは学力が関係します。それを踏まえて地域で通学可能な学校を考慮すると志望校が絞られてくると思います。各都道府県の教育委員会のホームページは、一番信頼できるサイトかと思っています。その他にも高校を検索するサイトがいくつもありますから気軽に調べてみるるところから始めてみるのがいいでしょう。早ければ早いほどいいと思います。例年、春頃から合同説明会が各都県で開催もされています。担任の先生、進路指導の先生ともよく相談し、その上で候補になる高校に問い合わせをしてみるという流れはどうでしょう。

23

学校公開などは行った方がいいですか？



A

行った方がいいでしょう。

候補になりそうな学校については、学校公開や文化祭に行き情報収集することをおすすめします。中学校 3年生になると、体験授業や希望者に個別相談会を実施している高校もあります。設備については、教育委員会や各高校のホームページ上で調べることが可能な場合もありますが、例えば、障害者用トイレなどは規格が統一されていないため、実際に足を運んでみないと車椅子で介助が問題なく行える設備であるかなど確認ができません。足を運んでみることで得られる情報があると思います。

24

保健体育などの実技教科の
内申点が不利になりそうです。
何か良いアドバイスはありますか？



A

在籍する学校に早い段階で相談してください。

公立高校受験に際して調査書(内申点)は重要です。都道府県ごとに取り扱いの方法に違いがありますが、合否に影響することに違いはありません。合理的配慮として、保健体育の実技はレポート作成で対応してもらうなど、受験希望の場合はできるだけ早い段階で、学校側と実技に代わる評価手段について話し合いをされてみてはいかがでしょうか。

25

受験当日は、具体的にどのような
合理的配慮が可能なのでしょう？



A

東京都の例です。

「学力検査、小論文または作文、面接において、検査方法、検査時間及び検査会場などについての特別な措置を申請することが可能です。志願者の障害の特性などを考慮した上で、問題用紙・解答用紙の拡大、英語リスニングテストでの座席の配慮、別室受験、検査時間の延長、記号選択式での受験、介助者(代筆者や音読者などを含む。)と同行、ICT機器の使用などが認められます。申請は12月に在学する中学校を通して行うこととなりますので、詳しくは、中学校の先生に確認してください。」(東京都教育委員会 HPより)と説明があります。

各都道府県で対応や基準、また高校側の状況によっても可能となる配慮の内容は異なると思います。中学校を通して早めの相談と申請が大切です。

先輩の皆さんはどうしましたか？

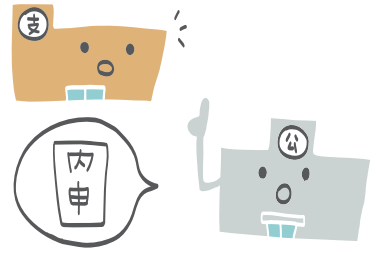
- ・手の動きが低下していたので、記述式の問題は選択式にしてもらいました。
- ・受験時間の延長をしてもらいました。
- ・車椅子のため、使用する机については事前に打ち合わせをしました。
- ・面接の際は、介助の方にドアをノックし、開けてもらうなどをお願いしました。
- ・別室受験をしました。その際、親が別室で待機させてもらいました。

都立高校の入試について Q& A(Q10参照 2021. 4アクセス)

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/admission/high_school/exam/files/pamphlet2021_japanese/doc_5.pdf

26

地域の支援学級、支援学校中等部から
公立高校を受験することはできますか？

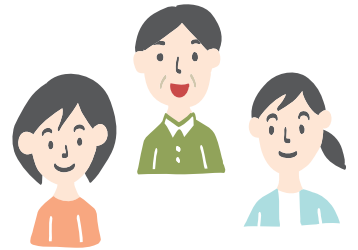


受験は可能です。

実際に、支援学校から公立高校へ受験した先輩がいます。ただし、受験に際し必要な内申書が支援級、支援学校ではつけられていない場合もあるため、公立高校への進学希望がある場合は、できるだけ早い段階で在籍している学校に相談して下さい。

27

入学後の学校生活についての
事前相談は可能なのでしょうか？



志願する公立高校に事前に相談は可能だと思います。

最終的には、合格が決まってからの相談となると思いますが、入学後の学校生活における配慮について、志願する予定の高校に事前に相談は可能だと思います。受験前にどの程度まで具体的に相談が可能かは、都道府県ごと、また学校ごとに対応に違いがあると思います。合格決定後、小中学校の時と同じように、学校側から教育委員会へ要望があり、教育委員会との話し合いの上で決定するという流れかと思います。

28

通学はどうしているのですか？



家族が送迎することが多いようです。

中には一人で交通機関を利用し通学する方もいらっしゃいます。

29

高校の通学に移動支援は使えますか？



A

過去に数名通学のためにサービス利用ができたという
お話は聞いたことがありますか…

通学手段は、公立高校進学を目指す皆さんにとって重要な検討事項の一つかと思います。障害者総合支援法の事業の一つである「地域生活支援事業」の中に移動支援事業サービスがあります。その利用にあたっては、「通勤・通学・通所」のための利用はできないとしている自治体が多いと思います。ただ、自治体によって利用の条件に違いがあるようですし、どれだけ困っているのか、必要なのかということを相談されてみることで、もしかしたら何らかの提案があるかもしれません。お困りの際は一度窓口に行かれてみてはいかがでしょうか。障害者支援を担当する部署が窓口かと思いません。

30

卒業後の進路はどうされているのですか？



A

これまでは、大学や専門学校へ進学される方が
多かったと思います。

最近では、卒業後就職をされる方もいらっしゃいます。

第3章

みんなの高校生活

“支援学校高等部の毎日は100点満点！”のAさん
「高校生活はどうか？」の質問に迷わず「100点です。」
と答えてくれたAさんの笑顔がとても印象的でした。
そんなAさんの学校生活を聞いてみました。



埼玉県在住
高等部入学時簡易電動車椅子使用
現在支援学校高等部在学中

■なぜ支援校を選択したのですか？

中学校から支援学校に在籍し、高校はそのまま支援学校の高等部へ進学することにしました。

■受験対策について教えてください。

学力で不合格になることはないと思っていましたが、国語と数学のテストがあるため勉強はしました。
面接の練習は、中学校でしました。

■高校生活について教えてください。



通学はどうしていますか？



スクールバスがあります。

スクールバスが停車するバス停までは両親が毎日送迎してくれています。

2

部活動などには参加しましたか？

A

月1回ですがスポーツクラブに入っています。

他は部活ではありませんが生徒会(副会長)の活動を週1回しています。

3

サポート体制は十分でしたか？

A

サポート体制は問題ありません。

常時1人の支援員が付き、移乗時は二人介助、着替えなどの際の介助もお願いしています。

4

高校生活の満足度は何点ですか？

A

100点です。

とても楽しく充実した毎日を過ごしています。特別支援学校に入り、クラスメイトよりも動ける自分に気が付きました。動ける自分をもっと積極的に頑張らねばという気持ちにもなりました。先生方も、そんな自分と真剣に向き合ってくれます。色々なことに対する興味の幅が本当に広がりました。

■高校受験や高校生活をこれから迎える後輩に一言お願いします。

「受験」は気張らないで欲しいと思います。体調を整えるためにも、日常生活をしっかり送り受験を迎えることが大切だと思います。自分自身は、特別支援学校に入学したことは良かったと思っています。

■卒業後の進路について教えてください。

卒業後は、障害者雇用枠での在宅就労を考えています。中学3年生の頃から、MOS（マイクロソフトオフィススペシャリスト）の資格取得のためPC教室に通い勉強をしています。PCやタブレットを使った仕事をしたいと考えています。

■Aさんの高校受験や高校生活はどうでしたか？（Aさん母より）

支援学校への進学は、息子にとっては良かったと感じています。活動範囲が広がり、興味の幅も広がりました。何事にも楽しそうに学校生活を送っている様子に安心しています。卒業後は、就労目指して頑張っ欲しいです。

“支援学校から卒業後は大学へ進学”したBさん
Bさんは、支援学校から大学進学を目指し合格しました。
どのような学校生活を送り、また受験対策をしたのでしょうか？
そんなBさんの当時の学校生活を聞いてみました。



東京都在住 20代
高校入学時簡易電動車椅子使用
充電期間を経て最近一人暮らし開始

■なぜ特別支援校を選択したのですか？

中学校は、地域の公立中学校でした。学校生活は、常に介助員の方がついていてこともあり、どこか同級生との交流が難しくクラスに馴染めていないと感じていました。高校進学は、その点を考慮して支援学校の方がいいのではという思いがあり選択をしました。

■受験対策について教えてください。

特別な対策はしませんでした。

■高校生活について教えてください。



1 通学はどうしましたか？

基本的にはスクールバスの利用でした。

3年生の夏から半年間は、自主下校の練習があり、バス停までは一人で電動車椅子を自走し、電車とバスの利用で通学する練習をしました。



2 部活動などには参加しましたか？

ハンドサッカー部に在籍していました。



3

サポート体制は十分でしたか？

A

十分でした。



4

高校生活を振り返るとその満足度は何点ですか？

A

点数はわかりませんが、高得点です。

■高校受験や高校生活をこれから迎える後輩に一言お願いします。

自分らしく過ごせる選択がいいのではと思います。

私は、特別支援学校への進学はとても有意義な時間を過ごすことができ良かったと思いました。

■卒業後の進路について教えてください。

AO入試で成城大学に合格しました。

一次試験は英語と国語、二次試験は面接でした。国語は、独学でしたが、英語は先生とのマンツーマン指導と、大手進学塾に通い対策をしました。ところが、大学3年生の後半から体調が悪くなり最終的に退学するに至りました。その後は体調と相談しながらの生活となりましたが、少しずつ一人暮らしの準備をしていました。約2年の準備期間を経て、最近念願の一人暮らしを始めました。充実しています。

■Bさんの高校受験や高校生活は怎么样了か？(Bさん母より)

入学してみると、息子の身体機能はクラスメイトよりも良く動ける人という立ち位置になりました。そのせいもあり、生徒会長や部長など色々前にでて頑張る機会を与えてもらいました。自分自身が変わるきっかけになり、支援学校の選択は良かったと思っています。

Cさんは、地元の中学校から公立高校を受験しました。学校の選択については「全く迷いはなかった。」と答えます。そんなCさんの高校生活を聞いてみました。



東京都在住 20代
高校入学時は電動車椅子使用
現在大学院生

■なぜ公立高校を選択したのですか？

地元の公立中学に通い、その友人達と同じように自分が公立高校へ進学することは当たり前のことだと思っていました。支援校の選択肢は、当時の自分の中ではありませんでした。

■学校選びの基準はありましたか？

自身の学力で合格が狙える学校ということは当然ですが、それ以外では設備面を重視しました。エレベーターがあり、校舎がバリアフリーであること、通学しやすい場所にあることを優先しました。公立高校は、教育委員会という窓口があり支援員の配置などサポート体制を整備してもらうには私立高校よりも条件として良かったです。私立高校は、いくつか候補を考えましたが学校の予算で支援員をつけてもらうということが壁になりました。

■受験対策について教えてください。



受験勉強について



一般入試での受験を考えていました。

進研ゼミの通信講座を利用しながら塾には通わず勉強をしました。

2

内申書について

A

中学校側と話し合いをしました。

体育等障害を理由に1、2がついてしまう教科については配慮をしてもらいました。

3

受験当日の合理的配慮について

A

手の動きに不安があり、記述式の問題は選択式にしてもらいました。

自分自身の疲労を考慮して延長はしませんでした。受験時間の延長も可能であると言われました。

4

併願校の受験はしましたか？

A

しませんでした。

■高校生活について教えてください。

5

通学はどうしましたか？

A

雨の日だけは、家族に送迎をお願いしましたが、基本的には、ノンステップバスを利用し一人で通学をしました。

バスが混んでいると見送ることもあり、日によって通学時間に多少の差がありました。

6

部活動などには参加しましたか？

A

合唱部に在籍しました。

おしゃべりを楽しんだりできる緩い雰囲気でした。

7

サポート体制は十分でしたか？

A

特に問題はありませんでした。

非常勤職員の支援員が付きました。クラスメイトも必要があれば介助をしてくれました。遠足なども参加していました。



高校生活を振り返るとその満足度は何点ですか？



やや満足の7.5点 いい青春でした。

今思えば、放課後の活動には支援員が付かなかった、いたらもっと学校生活が楽しめたという点を-2.5点にしました。

■高校受験や高校生活をこれから迎える後輩に一言お願いします。

「好きにやったら、意外と何とかなる」でしょうか。気負いすぎないことも大切だなと思います。周囲も助けてくれるはずですよ。

■卒業後の進路について教えてください。

高校卒業後、大学進学し、大学院生です。

■Cさんの高校受験や高校生活はどうでしたか？(Cさん母より)

高校受験は、大学進学という夢があり頑張ったのではないかと思います。学校生活は、中学までと比べるととても楽しそうでした。先生方、クラスメイトの理解があり良い環境だったと思います。クラスメイトが、特別ではなく自然に接してくれたことはとてもありがたいことでした。また、中学校までは通学に付き添いを求められていましたが、高校生活では介助者なしで自由に動くことができたこと、一人で通学ができたことも貴重な経験であり楽しめた要因だったと思っています。

“公立の商業高校に進学”したDさん

Dさんは、地元の公立中学校から公立高校へ進学しました。志望校合格を機に、持ち家があったにも関わらず家族揃って高校近くに引っ越しを決意。そんなDさんの学校生活を聞いてみました。



神奈川県在住 10代
高校入学時は電動車椅子使用
在宅就労を目標に就労準備中

■なぜ公立高校を選択したのですか？

将来的には仕事をしたと思っていました。そのためには、専門的な知識を身に付けたいと考えました。同年代の友達が欲しかったことも一つには大きかったかもしれません。私立高校は、支援員の配置が難しいことが分かり公立高校に絞りました。

■学校選びの基準はありましたか？

志望校選びは、中学2年生の夏から、合同説明会に参加することから始めました。併願校の受験はしないと決め、全国模試で自分のレベルを把握し合格が確実な安全圏の学校に絞りました。志望校を決めてからは、文化祭に行き、学校見学は2回、学校説明会には3回参加、体験学習も積極的に参加しました。

■受験対策について教えてください。



受験勉強について



中学校2年生の夏から家庭教師を利用しました。

普段は週1回、テスト前は週2回という頻度でした。入試直前期は、週3回に増やしました。その他、模擬試験を受けて自分の実力の把握を心掛けました。



内申書について



特別な配慮はしてもらいませんでした。

保健体育は、可能な運動は参加しそれ以外は見学をしていました。筆記試験は頑張りました。実技教科の評定で「1, 2」がつくことはありませんでした。



受験当日の合理的配慮について



机やトイレなどは事前に打ち合わせをし、別室受験になりました。

面接の際のドアの開閉の配慮をお願いしました。父が別室で待機をしていました。



併願校の受験について



併願校の受験はしませんでした。

不合格の時は、通信制の学校を考えていました。また入学後、学校生活の継続が困難になった場合は、特別支援学校への転入を視野に入れていました。

■高校生活について教えてください。

5

通学はどうしましたか？

A

母が毎日送迎をしてくれました。

6

部活動には参加しましたか？

A

商工部に入部しました。

PCでゲームを作成したり、工作のような物づくりをする部です。

週2回程度の活動でした。部員との交流ができて楽しく時間を過ごせました。

7

サポート体制は十分でしたか？

A

支援員がつき問題なく学校生活を送れました。



高校生活を振り返るとその満足度は何点ですか？

A

点数を付けることは難しいです。

実は、思い描いていた高校生活とは少し違いました。多くの同年代の友人との交流を大切にしたいと公立高校へ進学しましたが、全く新しい環境の中で、どこか自分自身が積極的に交流を深められず、少し残念に思っているのです。

この思いを、次に活かしたいと思っているところです。

■高校受験や高校生活をこれから迎える後輩に一言お願いします。

焦らず、自分らしく過ごせる進学先を選択することが大切だと思います。

■卒業後の進路について教えてください。

障害者雇用枠での就職を希望し、今就職活動中です。在宅勤務を考えています。

■Dさんの高校受験や高校生活はどうでしたか？(Dさん母より)

高校受験に関しては、中学校の先生が色々動いて下さり助かりました。志望校側とのやり取りも、受験当日の準備なども学校側が進めてくれました。そして、希望通りの進学。持ち家がありましたが、家族で高校近くのマンションに引っ越しをしての3年間です。本人の様子は先述の通りで「高校生活を満喫！」とはならず親としても少し残念な気持ちでおります。ただ、この経験を次のフィールドで活かしてくれたらいいなと前向きな気持ちでいます。学校選びについては、校風や生徒たちの雰囲気を知ることは大切だと思いました。

“周囲のアドバイスを参考に公立高校へ進学”Eさん
Eさんは、公立中学校から公立高校に進学しました。
中学校も高校もどちらも同じぐらい楽しかったとのこと。
そんなEさんの当時の学校生活を聞いてみました。



東京都在住 20代
高校入学時は簡易電動車椅子使用
現在大学卒業し充電期間中

■なぜ公立高校を選択したのですか？

中学校は、地元の公立中学に進みました。担任の先生だけではなく、特別支援学級の先生も高校への進学については様々な情報提供してくれました。私自身も積極的に相談し周囲の人たちのアドバイスに耳を傾けました。最終的には、自分自身の選択は公立高校になりました。

■学校選びの基準はありましたか？

自宅からの通学が可能なこと、その上で自分自身の学力で合格が目指せそうな学校に絞りました。

■受験対策について教えてください。



受験勉強について



中学校1年生から英語、数学、国語の公文を始めました。

また、受験対策は通信教育のチャレンジを受講しながら、過去問を解き対策しました。

2

内申書について

A

特別な配慮はお願いしませんでした。

3

受験当日の合理的配慮について

A

「国語」「数学」の二教科は、記述形式の解答が多く、
記入に時間がかかるため試験時間の延長をお願いしました。

それに伴い別室での受験となりました。

4

併願校の受験はしましたか？

A

興味がある私立高校がいくつかあり見学をしました。

その上で最終的に1校受験をしましたが、結果は不合格でした。実際、施設は
バリアフリーではなく通学は難しかったかもしれません。

■高校生活について教えてください。

5

通学はどうしましたか？

A

自宅から、簡易電動車椅子で30分～40分ぐらいかかりました。

母親が毎日通学する自分に付き添っていました。

7

部活動などには参加しましたか？

A

参加していません。

8

サポート体制は十分でしたか？

A

十分でした。

非常勤の先生が支援員としてついてくれました。



高校生活を振り返るとその満足度は何点ですか？

A

70～80点ぐらいです。

自分自身を理解してくれる友人ができ、良い関係を気付くことができ、楽しい高校生活を送ることができました。

■高校受験や高校生活をこれから迎える後輩に一言お願いします。

周囲の大人とよく相談をして、最終的には自分自身が後悔しない選択をして下さい。

■卒業後の進路について教えてください。

一般入試で大学受験し進学をしました。大学卒業まで大変忙しい毎日を過ごしていたので、少しゆっくり過ごしたいと1年間はのんびり過ごすことにしました。今後は、動画作成に興味があり、少しやってみようかなと思っていますところ です。

■Eさんの高校受験や高校生活はどうでしたか？(Eさん母より)

高校生活は、大変充実している様子でした。親として、高校に限らず息子の学校生活を通して感じたことは、学校側も初めてで分からないことが結構あるということです。最初からあきらめず、情報収集をしながら色々と相談してみる、交渉してみるということの大切さを痛感しました。

国立の特別支援学校高等部に進学したFさん
日本で唯一の国立の肢体不自由者特別支援学校に進学した
Fさん。

通学可能であれば、選択肢の一つになります。

中学部で入試を受け入学されているので、高校受験とは少し
違いますが高等部からの入学も可能であるので、どのような
学校生活を送っているのかを教えてくださいました。



東京都在住
高校入学時は電動車椅子使用
現在大学生

■なぜ国立の特別支援学校を選択したのですか？

この学校は、小学部・中学部・高等部とあり、私は中学部で入学試験を受け入学をしました。
クラスが少人数であり、施設が整っている。
実技教科含めて全ての教科をしっかり勉強したいという希望があり受験を考えました。

■受験対策について教えてください。



1 受験勉強について



小学校5年生の時、週2回の頻度で通塾をしました。

土日は、しっかりと勉強時間を確保し、過去問も受験対策として一生懸命解きました。



2 内申書について



小学校で調査書を書いて頂きました。



3

受験当日の合理的配慮について

A

テーブルの高さ調整、親は別室で待機をしていました。



4

併願校の受験について

A

私自身は、合格するつもりで他は考えていませんでした。

母は、私には内緒で都立の特別支援学校の見学をし、公立中学校の情報収集もして不合格だった時のことも視野に入れていたようです。

■高校生活について教えてください。



5

通学はどうしましたか？

A

車で1時間です。

中学校までは、週3日は一人で帰宅をしていました。高等部になると公共の交通機関自主通学が基本になります。春から電車を2回乗り換え通学しています。

6

部活動などには参加しましたか？

A

「スポーツ部」に在籍しています。

ボッチャやハンドサッカーをし、大会にも参加をしています。

7

サポート体制は十分でしたか？

A

十分です。

8

高校生活を振り返るとその満足度は何点ですか？

A

高等部になったばかりですが、90点ぐらいです。

－ 10点分は、今後への期待として残しています。

■高校受験や高校生活をこれから迎える後輩に一言お願いします。

学校行事には全て参加ができ、先生との距離が近く過ごしやすい環境です。
私としては、おすすめの学校です。

■卒業後の進路について教えてください。

大学進学を考えています。経営学に興味があります。オープンキャンパスに行きながら、志望校を考えようと思っています。

■Fさんの高校受験や高校生活はどうでしたか？(Fさん母より)

小学校 5年生から週 2回通塾しながら受験勉強を始めました。まずは、受け入れて下さる塾探しから始めました。クラスメイトに恵まれ、とても充実した学校生活を送っているように見えます。恐らく公立の中学校、高校と比べるとPTA活動が活発で、親の参加が必須ということについては覚悟が必要かもしれません。

『おわりに』

本冊子は、「高校進学」に焦点をあてました。現在、DMDの皆さんの進学先は、特別支援学校高等部あるいは公立高校いずれかの選択が大部分を占めています。どちらの高校がいいということではなく皆さん一人一人にとってどちらがベストな選択となるのか、自分らしい高校生活を送れるのかのヒントをお届けできればという思いで今回作成致しました。

私達は、作業療法を通じて「情報の橋渡し役」を一つの役割として多くの人と情報を共有できるよう努めて参りたいと思っております。今後とも引き続き宜しくお願い致します。

身体リハビリテーション部 作業療法部門

この冊子の発行にあたって

義務教育を終えて高校に入学する時期は障害の有無に関わりなく将来のことを考えるようになっていく時期であり、精神的にも大きく成長する時期になります。この頃になると自分の体についての理解も深まり、将来像を描きやすくなると思います。この冊子を参考に、高校生活を円滑に行うための環境を整備し、前向きに学び、色々な経験を積んで頂くことを願います。

身体リハビリテーション部 部長 水野勝広

本冊子を作成するにあたり、情報提供をお寄せ下さった皆さま、そして専門的な立場から情報提供下さった特別支援学校の先生、教育委員会の皆さまに心から御礼申し上げます。

そして、本冊子発行のために、ご助言頂いた小児神経の小牧宏文先生、本橋裕子先生、竹下絵里先生をはじめ当院の先生方、スタッフの皆様に感謝申し上げます。

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院
身体リハビリテーション部 作業療法部門
2021年11月発行

非売品 本冊子内の文章・イラスト等の無断転載・引用はご遠慮ください。

